

平成 27 年 12 月 11 日

## 平成 27 年度博士フォーラム実施報告

幹事校：大阪大学大学院基礎工学研究科

### 【1】実施の概要

企画の意図：

「八大学の教員が博士課程学生（現、元）の意見や要望を聴き、各大学での情報を共有して自大学に持ち帰って教育プログラムの改革に活かす」ために試行する。

意見交換の主題：

「博士課程入学時に期待したこと、在学中に経験したこと、経験しなかったこと」から  
「博士課程をよりよくするために」

### 【2】参加者

- (i) 幹事校の博士課程学生（別紙 1）
- (ii) 各大学の博士課程修了直後の若手研究者（別紙 1）
- (iii) 各大学の教育プログラム企画に関わる教員、分科会メンバーなど（別紙 2）

### 【3】プログラム

平成 27 年 12 月 4 日(金)

会場：大阪大学豊中キャンパス 大阪大学会館

- 12:00 - 13:00 参加受付
- 13:00 - 14:40 博士課程学生、若手研究者による意見紹介  
「博士課程に期待したこと、経験したこと、経験しなかったこと」
- 14:50 - 16:50 自由討論  
「博士課程をよりよくするために」  
会場；大阪大学交流棟「宙-SORA-」
- 17:00 - 19:00 交流会

### 【4】自由討論における意見

当日の進行役等を務めました幹事校の若手研究者による自由討論のまとめについては、別紙 3 をご参照ください。

大学名	所属・学年	氏名
大阪大学	工学研究科応用化学専攻 博士後期課程1年次	岩崎 和紀
	工学研究科マテリアル生産科学専攻 博士後期課程3年次	後藤 弘樹
	工学研究科機械工学専攻 博士後期課程3年次	武石 裕行
	基礎工学研究科物質創成専攻 博士後期課程2年次	瀬戸浦健仁
	基礎工学研究科機能創成専攻 博士後期課程1年次	矢野 絢子
	基礎工学研究科システム創成専攻 博士後期課程3年次	岡留 有哉
	情報科学研究科マルチメディア工学専攻 博士後期課程2年次	横山 正浩

大学名	職名	氏名
北海道大学	情報科学研究科情報理工学専攻 専門研究員	幸若 完壮
東北大学	工学研究科都市・建築学専攻 助教	大風 翼
東京大学	工学系研究科社会基盤学専攻 助教	菊地 由佳
	情報理工学系研究科数理情報学専攻 助教	伝住 周平
	新領域創成科学研究科物質系専攻 助教	眞弓 皓一
東京工業大学	理工学研究科土木工学専攻 助教	堀越 一輝
名古屋大学	工学研究科社会基盤工学専攻 助教	吉川 高広
京都大学	工学研究科建築学専攻 助教	杉野 未奈
	エネルギー科学研究科エネルギー応用科学専攻 助教	池之上卓己
大阪大学	工学研究科電気電子情報工学専攻 助教	伊庭野健造
	基礎工学研究科機能創成専攻 特任助教	長久保 白

	情報科学研究科情報ネットワーク学専攻 特任助教	樋口 雄大
--	-------------------------	-------

出席者名簿（教員）

別紙 2

大学名	職名	氏名
北海道大学	大学院工学研究院環境フィールド工学部門 教授	杉山 隆文
東北大学	大学院工学研究科都市建築学専攻 教授	持田 灯
東京大学	大学院工学系研究科副研究科長 バイオエンジニアリング専攻 教授	佐久間 一郎
	大学院情報理工学系研究科副研究科長 創造情報学専攻 教授	千葉 滋
	大学院新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻 教授	小川 雄一
東京工業大学	大学院理工学研究科工学系物質科学専攻 教授	扇澤 敏明
名古屋大学	大学院工学研究科化学・生物工学専攻 教授	田川 智彦
京都大学	大学院工学研究科長 高分子化学専攻 教授	伊藤 紳三郎
	大学院工学研究科副研究科長(教育担当) 機械理工学専攻 教授	北村 隆行
	大学院工学研究科副研究科長(研究担当) 都市社会工学専攻 教授	大津 宏康
	大学院工学研究科附属グローバル・リーダーシップ大学院工学教育推進センター長 化学工学専攻 教授	長谷部 伸治
	大学院エネルギー科学研究科教育研究委員長 エネルギー社会・環境科学専攻 教授	下田 宏
	大学院情報学研究科長 知能情報学専攻 教授	山本 章博
	大学院情報学研究科全学教育制度委員・副研究科長 数理工学専攻 教授	太田 快人
	大学院情報学研究科教務委員長 システム科学専攻 教授	杉江 俊治
九州大学	工学研究院・副研究院長 エネルギー量子工学部門 教授	松村 晶
	工学研究院・副研究院長 工学研究院社会基盤部門 教授	園田 佳巨

	システム情報科学研究院 情報エレクトロニクス部門 教授	浅野 種正
大阪大学	大学院工学研究科機械工学専攻 教授	津島 将司
	大学院基礎工学研究科長 機能創成専攻 教授	河原 源太
	大学院基礎工学研究科 評議員 システム創成専攻 教授	狩野 裕
	大学院基礎工学研究科 副研究科長 機能創成専攻 教授	田中 正夫
	大学院基礎工学研究科 副研究科長 システム創成専攻 教授	酒井 朗
	大学院基礎工学研究科 副研究科長 物質創成専攻 教授	中野 雅由
	大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻 教授	増澤 利光
八大学工学系連合会 事務局長補佐	枝 丈雄	

## ■ 経済的支援

- 経済的支援制度の有無や充実度は大学・専攻によって異なる（強力な支援があるとありがたい）
- 授業料相当分を給与として支給する例もあるが、税金面や振り込み時期の関係で不都合が生じる場合があるため、入学料・授業料免除の方がありがたいという声も
- 一方で、研究活動の自由度は重要視している人が多い
- 授業料を支払うからこそ自由度が担保されるという側面も
- 給与を受給している以上は、与えられた役割を果たす義務が生じる
- > 金銭的負担と自由度のトレードオフ
- 授業料が何に使われているのか（学生としてのメリット）を明らかにすることで納得性が増す
- 他の分野の講義を受けることもできる
- 設備の維持管理費、ジャーナルへのアクセス

## ■ 教育的支援

リーディングプログラム等の各種プログラム

利点

- 給与を受給しながら異分野の知識・経験が得られる

疑問点

- プログラムに関する負担があまりにも大きい
- カリキュラムで長期海外留学が義務化されている
- メインの研究に支障が出てしまうケースも
- コミュニティの幅を広げるだけなら学会活動でも十分可能
- > メインの博士課程教育とのすみ分けや位置づけを明確にすることが必要
- > 周囲の理解やサポートが重要（カリキュラムを考慮した研究計画の再調整等）

学生生活

- 後輩を指導する経験は博士進学の重要なメリット
- 博士学生の自由な研究時間の確保する研究室運営が望ましい -> 学部生の雇用（lab assistant）という手も
- 学会運営・学生同士の交流会等、研究以外の対外的活動は貴重な経験になるため、学生の側もこうした機会を積極的に活用すべき

## ■ キャリア支援

- 勤務地・勤務時間、仕事内容の自由度が高いことが大学で働くことのメリット
- 将来のキャリアパスに対する不安は小さくない（雇用が不安定）

- 雇用状況については、博士自身の実感と世間のイメージとの間に乖離がある -> 大学としても発信が必要

#### ■ コミュニケーション支援

- 博士・若手研究者同士が交流する場を大学単位で提供する取り組みも
- 博士研究者自身も、学会活動等を通してコミュニティを広げていく努力が必要  
(意見紹介より)
- 指導教員によるサポート（人的ネットワークを広げるきっかけの提供）
- 学内・研究室内のコミュニケーションの促進
- 女性研究者の交流の場 -> 対策の実効性を高めるためには女性研究者支援のみならず男性の理解が必要